

## Central Japan Quality Control Association

2015.11 発行

# 「モノづくりは、人づくり」



(株)東郷製作所の農機具 左：トーゴ式脱穀機（1923年） 右：文化鋤（1930）年

東郷製作所のルーツは遠く明治期に創設された「トーゴ農具製作所」に遡る。1881年、愛知県愛知郡東郷町において農機具製造業をはじめ、人力脱穀機の開発や文化鋤（くわ）の考案など、農機具の発展に大きく貢献していったが、昭和の農業恐慌により事業の転換を迫られ、脱穀機製造や鍛冶屋で得た多年の経験により自動車用ばねの製造に着手した。早くから自動車部品の生産を手がけてきた業界の草分け的存在として、今日、自動車用ばねの生産では業界屈指の実績を誇っている。

鍛冶屋で培った技術革新の精神は、社是「『昨日よりもよい品』で社会に奉仕する」に込められ、現在の自動車用小物ばねづくりに脈々と受け継がれている。

### 【内 容】

- 1 2015年度 中部品質管理協会業務改善事例発表大会報告
- 2 佐々木会長「自工程完結」発刊！関連イベントご案内
- 3 事務局からのご案内・品質コラム

# 9月29日『2015年度中部品質管理大会』

## ～業務改善事例発表大会～実施報告』

### 【大会概要】

去る9月29日にウインクあいちにて例年通り開催させていただきました。当日、まずは6つの企業から業務改善事例をご紹介いただきました。

\* 敬称略、発表順

会社名・発表者名	事例テーマ
(株)東海理化 山村 英記	着磁条件による磁石表面の磁束密度分布制御
中部品質工学研究会 杉浦 晃治	QFDと品質工学を併用した新製品開発 『トイレ用携帯消臭剤の開発』
アイシン精機(株) 上川照政・岡崎里美	GHP 補給部品お客様満足度向上
三菱自動車工業(株) 緒形 美希子	輸入部品輸送ダメージ処理時間の削減
小島プレス工業(株) 安部 将成	射出成型不具合低減と多変量管理図を用いた管理
トヨタ紡織(株) 千賀 正義	ポルテ成形天井 工程内不良低減

その後は、昨今話題になっている「ビックデータ」を中心にそえた以下2つの講演をいただきました。

### 講演1 楽天(株)執行役員 森 正弥氏

「インターネット企業楽天における顧客満足度を高めるデータ活用とその先の『機械との競争』の懸念と超克」

人類はロングテール化してきており、日本も例外ではなく、顧客も商品もロングテール化してきている。クラウドに代表される大規模基盤により、コンピューターはこの量の処理を求め、ロングテールに対応。大量個別処理をし、消費者の思考の変化にも人手を介さない自動最適化が可能な時代となってきている。では、これからの時代に人間がすべきことは何か。楽天は「トレンドを作り出す」「最新のものに反応できる」ことを念頭に、世界中から優秀な人材を採用し、多様な価値、多様な視点を社内に内包しようとしている。



### 講演2 独立行政法人統計センター 理事長 椿 広計

「ビックデータ時代・統計・品質管理」



自称：不思議の国の保守的統計家という立場でその定義からまず説明。米国での定義と比較しながら、20世紀初頭 Gosset に始まる統計的品質改善活動、Shewhart や Pearson により科学として確立した「品質管理学」、そして Deming による PDCA サイクルと日本の品質管理活動の経緯を紹介。その歴史的経緯を踏まえた古典的統計家としての見解は「データは量が勝負ではない」。

データにも品質があり、品質の悪いデータに基づく意思決定は大きな誤りを犯す。データの質にも、モノづくり同様、アウトプットの質だけでなく、設計品質やプロセス品質が大きな意味をもつ。また自身の立場からは、ISO20252 という調査マネジメント企画に基づく第3者サービス認証が、公的統計ないしは市場調査に果たす役割、医療品データマネジメントの最近の動きなど、様々な分野の知見を多くの方と共有したいと考えている。

平成28年2月1日(月)

「質創造マネジメント大会」を開催します

ご参加お待ちしております！！

場所:ウインクあいち 大ホール

日時:平成28年2月1日(月)

13:00～16:25

講演者:(株)キャタラー 代表取締役 砂川 博明氏

キリン食生活研究所 所長 太田 恵理子氏

大垣共立銀行 取締役頭取 土屋 嶮氏

## ASUISHI

9月27日(日)キックオフシンポジウム実施！

佐々木会長と藤岡社長（愛知製鋼）登壇されました！



9月27日(日)、名古屋大学病院の大講堂で、ASUISHI 事業キックオフシンポジウムが開催されました。前号でお知らせした国の高度人材育成プログラムに採択された事業です。TOYOTA の品質管理、安全管理の考え方や手法を医療界に紹介・お伝えする主旨に注目が集まり、当日は日曜日にも係らず、多くの参加がありました。「明日の医療の質向上につながるヒトづくり」と題して、パネル討論会を実施。パネラーは品質管理分野でも第一人者の飯塚悦功先生(東京大学)、愛知製鋼(株)藤岡社長、京都大学医学部一山先生、患者の視点で医療安全を考える連絡会代表の永井氏。本事業の外部委員でもあるパネラーは、本事業のステークホルダーを代表し、その多様な視点で本プロジェクトのあり方が活発に意見交換された。

その後、特別講演として、当協会の佐々木会長が「安全・品質と人づくり～医療の質向上を目指して～」と題して講演。トヨタ自動車(株)で自身が取り組んできた安全管理、品質管理、そして人づくりの例を挙げながら、トヨタにおける考え方、そして自らの考えを話しました。

佐々木会長、藤岡社長のお二方ともが「トヨタでは、いかに一人一人が自分の仕事のリーダーになって、主体的参画をしながら仕事を進めることができるか、管理者は考え、実践している」と述べ、また、TQM の思想である「お客様第一」「全員参加」

「飽くなき改善」をトヨタは愚直に実践し今があると強調され、聴衆が熱心に聴き入っていたのが印象的でした。

10月から ASUISHI の講座もスタートし、全国から 16名の先生方が参画され、熱心に学ばれています。産業界の智恵が、医療界へどのように浸透し、どのように機能してゆくのか、日々試行錯誤しながら、受講生・講師とともに道を切り開いている最中です。今後も報告を重ねつつ、皆様のご支援とご指導を仰ぎます。宜しくお願いします(細)。



佐々木会長著「トヨタの自工程完結」が出版されました！

記念事業のご案内（1月15日中品協・1月22日三省堂名古屋）

この11月中旬に、佐々木会長著の「トヨタの自工程完結」が出版されました。ダイヤモンド社から発刊。出版を記念し、当協会では来年早々、1月15日(金)午後佐々木会長を中心に関連イベントを計画しています。

会員様限定、1社1名の先着40名程となりますが、講演会と座談会を計画しております。詳細は追って、会員様へご案内させていただきます。

また、一般でも参加可能なイベントとして、ダイヤモンド社、三省堂名古屋書店と協力いただき、1月22日夜7時から出版イベントを予定しております。こちらもまた詳細をHP等で掲載案内させていただきますが、皆様には是非、ご参加宜しくお願いいたします。





# 協会だより



1. 平成 27 年 10 月 1 日、一般社団法人「中部品質管理協会」となりました。
2. 専務理事岩本が一般社団法人品質管理学会「2015 年度品質管理推進功労賞」を受賞しました。

上記、会員の皆様にご連絡もうしあげますとともに、今後ますます、当協会は地域のために、そして社会のために、品質管理の普及を通して、貢献して行く所存です。

どうか、皆様方にはますますご支援ご協力を賜りますよう、心よりお願い申し上げます。

## furuya の品質 SAIKOU

### 医療と品質管理

近年、医療事故の報道が後を絶たない。今年 5 月 17 日付の中日新聞に掲載された「腹腔鏡を使った手術を受けた患者が相次ぎ死亡するなど手術方法の不透明な判断過程や、患者家族への説明不足が指摘されている。」との記事も記憶に新しい。

こうした医療の問題に対して、日本品質管理学会では 2014 年 7 月に「医療事故調査制度に関する声明」を出している。その中で「医療事故調査の重要な目的の一つは、医療事故の原因究明と再発防止である。これにより、医療提供体制、プロセスおよび技術を改善・向上させ、類似の事故を未然に防止できる。」とした。さらに、医療の事故調査では、原因究明と責任追及が同じ枠組みで議論される傾向にあり、このことが適切な原因究明の阻害要因になってきたと指摘している。

一方、名古屋大学医学部附属病院では、この 10 月に「明日の医療の質向上をリードする医師養成プログラム (ASUISHI)」を立ち上げた。不足の事態が起きても適切に対応できる仕組みづくりに加えて、原因を明らかにして再発を防止できる専門医の養成がその狙いである。まさに産業界における品質管理の考え方・手法の出番と言える。

産業界が培ってきた、問題解決をベースとする品質管理のノウハウを、どうしたら医療の分野で役立ててもらえるのか。筆者も講師陣の一人としてその責任の重さを感じるとともに、一人でも多くの医療の質向上をリードできる医師の誕生を願っているところである。

**【編集後記】** 私事ながら、11 月初めに韓国釜山政府に招へいされ、日本文化の一つである茶道の心を紹介する機会を頂きました。政治的にも 2 年ぶりに安倍首相と朴大統領が会話を再開した直後の文化交流行事で、何ともタイムリーな機会となりましたが、世界 15 ヶ国から招聘された他スピーカーと「茶」という共通なテーマで異なる文化背景、価値観を紹介しあう醍醐味を肌感覚で経験する基調な機会を頂きました。多文化の共存が求められるこれからの時代に、政治や経済だけでなく、文化的素養、交流は欠かせないと感じます (細)